

## 暮らしの場や養育者がかわるときに気をつけなくてはならないこと

	I	II	III	IV	V	VI	VII
	過去の生活・養育者の否定	移行に関して適切とは言えない言動(移行についての誤った意味付け等)	大人側の理由・都合の強要	説明不足	移行の説明時期について	変更(移行)への抵抗	その他
目標	・子どもをありのまま、そのままを受け入れる	・養育者の言動のチェック(権利擁護意識の育成)	・職員の限界への謝罪と説明	・合意と納得の確認	・お別れの時間の確保	・養育者の継続支援	・子どもに真摯に向き合うことによる信頼感の獲得
1	養育者同士が情報共有を密にする(事実をおさえる)	嘘を言わない	素直に心から謝る	子どもに存在の大切さが伝わるように説明する	入所のときから見通しを立てる	養育者・育った場とのつながりを切らない	子どもの発達に応じて意思決定に参加する
2	子どもの理解、想いを知ることを大切にする	理由をしっかり説明する	理由を分かりやすく説明する	分かりやすく説明する	養育者との別れ、子ども同士の別れの作業を大切にする	子ども同士のつながりを切らない	
3	保護者の存在を忘れない、保護者の想いを知る	言い訳をしない	子どもの気持ちを汲み取る、傾聴する	説明だけで終わらない	子どもの状態(理解度・年齢)に配慮した伝え方をする	子どもが大切にしている物を移行先に持っていけるようにする	
4	養育者の想いを知る	養育者の気持ちの揺れを伝えない	子どもに寄り添う	子どもの理解度について常に確認する	子どもが関わった人(学校・地域)との別れの時間・場を大切にす	移行先での抵抗感を減らせるよう最大限努力する	
5	今までの暮らしの中で育った子どもの価値観を尊重する	適切な時期に伝える	大人の気持ちを押しつけない	見学・体験の場を設ける			
6	子どもが余暇活動を継続できるようにする	前の養育者との関係を妬まない	良い反応を求めない	移行先の養育者からも説明する			
7							

※「移行(期)」とは、「措置変更などにより暮らしの場や養育者がかわること(とき)」を指しています。